

4. ぶどう

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅) I C ボルドー 4 8 Q	散布	—	—	
	I C ボルドー 6 6 D	散布	—	—	
	コサイド 3 0 0 0	散布	—	—	
M4+P7	アリエッティ C 水和剤	散布	収穫 30 日前まで	3 回以内	
22	エトフィンフロアブル	散布	収穫 7 日前まで	4 回以内	
M4	オーソサイド水和剤 8 0	散布	収穫 30 日前まで	3 回以内	
3	オンリーワンフロアブル	散布	収穫前日まで	3 回以内	
27+M3	カーゼート P Z 水和剤	散布	収穫 45 日前まで	2 回以内	
40+M3	(ベンチアバリカルブイソプロピル・マンゼブ) カンパネラ水和剤 ベネセット水和剤	散布	収穫 45 日前まで	2 回以内	
M1*	キノンドー水和剤 8 0	散布	収穫 45 日前まで	4 回以内 (但し、開花後は 1 回)	
10+1	ゲッター水和剤	散布	収穫 45 日前まで	1 回	
40+45	ザンプロ DM フロアブル	散布	収穫 30 日前まで	2 回以内	大粒種 ぶどう
			収穫 45 日前まで	2 回以内	小粒種 ぶどう
M3	(マンゼブ) ジマンダイセン水和剤	散布	収穫 45 日前まで	2 回以内	
	ペンコゼブフロアブル	散布	収穫 45 日前まで	2 回以内	
40+43	ジャストフィットフロアブル	散布	収穫 30 日前まで	3 回以内	
9+12	スイッチ顆粒水和剤	散布	収穫 30 日前まで	2 回以内	
12	セイビアーフロアブル 2 0	散布	収穫 21 日前まで	3 回以内	
M3	(チウラム) チオノックフロアブル	散布	収穫 60 日前まで	2 回以内	
	トレノックスフロアブル				
M9	デランフロアブル	散布	休眠期	1 回	
11+7	ナリア W D G	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	大粒種 ぶどう
M5	パスポート顆粒水和剤	散布	休眠期	1 回	
17	パスワード顆粒水和剤	散布	収穫 14 日前まで	2 回以内	
40	フェスティバル水和剤	散布	収穫 30 日前まで	2 回以内	大粒種 ぶどう
		散布	収穫 45 日前まで	2 回以内	小粒種 ぶどう
4+M5	フォリオゴールド	散布	収穫 60 日前まで	2 回以内	
7	フルーツセイバー	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	
9	フルピカフロアブル	散布	収穫 30 日前まで	2 回以内	
40+27	ベトファイター顆粒水和剤	散布	収穫 30 日前まで	3 回以内	
M7	ベフラン液剤 2 5	散布	休眠期	1 回	
1	ベンレート水和剤	散布	休眠期	1 回	
		散布	収穫 45 日前まで	3 回以内	
11+27	ホライズンドライフロアブル	散布	収穫 21 日前まで	3 回以内	
M7+19	ポリベリン水和剤	散布	収穫 60 日前まで	2 回以内	
52	ミギワ 2 0 フロアブル	散布	収穫前日まで	3 回以内	
21	ライメイフロアブル	散布	収穫 14 日前まで	3 回以内	
21	ランマンフロアブル	散布	収穫 14 日前まで	3 回以内	
40	レーバスフロアブル	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	
2	ロブラール水和剤	散布	開花期～幼果期 (但し、 収穫 60 日前まで)	3 回以内	
		常温煙霧			
M2	石灰硫黄合剤	散布	発芽前	—	落葉果樹

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	硫酸銅	ボルト液を調製して均一に散布する	—	—	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アーデント水和剤	散布	収穫7日前まで	4回以内	
4	アクタラ顆粒水溶剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
3	アグロスリン水和剤	散布	収穫21日前まで	5回以内	
3	アディオン水和剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	
4	(イミダクロプリド) アドマイヤー水和剤	散布	収穫21日前まで (但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
	アドマイヤー顆粒水和剤	散布	収穫21日前まで (但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	
1	ガットキラー乳剤	樹幹部及び主枝に散布	休眠期(落葉後～萌芽前)	2回以内	
1	ガットサイドS	主幹部に散布	幼虫食入期直前～食入初期(但し、収穫21日前まで)	2回以内	
30	グレーシアフロアブル	散布	収穫14日前まで	2回以内	
13	コテツフロアブル	散布	収穫60日前まで	2回以内	
3	スカウトフロアブル	散布	収穫7日前まで	3回以内	
1	スミチオン水和剤40	散布	収穫21日前まで	2回以内	大粒種 ぶどう 小粒種 ぶどう
			収穫90日前まで		
1	ダイアジノン水和剤34	散布	収穫30日前まで	2回以内	大粒種 ぶどう
5	(スピネトラム) ディアナWDG デリゲートWDG	散布	収穫前日まで	2回以内	
28	テッパン液剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
1	トクチオン水和剤	散布	収穫45日前まで	3回以内	大粒種 ぶどう
1	トラサイドA乳剤	散布	発芽前(休眠期)	2回以内	
3	バイスロイドEW	散布	収穫7日前まで	2回以内	大粒種 ぶどう
14	パダンSG水溶剤	散布	収穫21日前まで	5回以内	大粒種 ぶどう
10	パロックフロアブル	散布	収穫7日前まで	1回	
21	ピラニカ水和剤	散布	収穫30日前まで	1回	大粒種 ぶどう
4	ベストガード水溶剤	散布	収穫30日前まで	3回以内	
20	マイトコーネフロアブル	散布	収穫21日前まで	1回	
4	(アセタミプリド) モスピラン粒剤	樹冠下または主幹周辺に散布	収穫14日前まで	3回以内	
	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
1	ラビキラー乳剤	母枝、古つるに薬液を十分散布する。	発芽前(休眠期)	2回以内	
3	ロディー水和剤	散布	収穫21日前まで	2回以内	
3	ロビンフッド	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	
UN	石灰硫黄合剤	散布	発芽前	—	落葉果樹

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(1)「巨 峰」

この暦は露地栽培の「巨峰」を基準として作成した。「ピオーネ」、「ナガノパープル」などの大粒種もこの防除体系を参考にする。ただし、欧州系・米国系品種を除く。

【注意事項】

1. この暦には小粒種ぶどうに登録のない薬剤や、小粒種ぶどうと大粒種ぶどうで登録内容が異なる薬剤が含まれるため注意する。
2. 農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

時期	散布薬剤と薬量（水 1000 当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔 太字は防除 〕 重要病虫害	注 意 事 項						
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">（落葉から発芽直前まで） 休眠期</p>	<p>越冬病虫害の防除</p> <p>晩腐病 } : 前年発生園では残存果房や穂軸、り病結果母枝、巻きひげの除去を徹底する。</p> <p>黒とう病 }</p> <p>ブドウトラカミキリ } : 被害枝を剪除し、焼却するか土中に埋める。</p> <p>ブドウスカシバ }</p> <p>ブドウサビダニ } : 3月下旬頃、石灰硫黄合剤 10 倍液を散布する。本剤は皮膚に刺激があるので注意する。</p> <p>ブドウヒメハダニ }</p>								
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4月中旬（発芽前）</p>	<p>殺菌剤</p> <p>〔 ベフラン液剤 25 400 ml 〕 〔 ベンレート水和剤 200 g 〕 のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="347 1120 738 1214"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>200ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S</td> <td>200ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	200ℓ	散布量	S S	200ℓ	<p>晩腐病 黒とう病 褐斑病 つる割病 ブドウハモグリダニ ブドウヒメハダニ カスミカメムシ類 ブドウトラカミキリ ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 晩腐病、黒とう病などの防除に重要である。発芽期に近づいた頃実施する。 2. 褐斑病の多発園ではベンレート水和剤を使用しない。 3. 左記の剤にかえて、デランフロアブル 200 倍またはパスポート顆粒水和剤 250 倍液を散布してもよい。石灰硫黄合剤と混用しない。パスポートは、開花直前～落花 20 日後頃のりんごに対して薬害（さび果）を生じるおそれがあるので注意する。 4. 前年の 8 月下旬～9 月上旬にブドウトラカミキリの防除を行っていない園では、ガットキラー乳剤 100 倍液、ラビキラー乳剤 200 倍液、トラサイド A 乳剤 300 倍液のいずれかを散布する。石灰硫黄合剤と混用しない。なお、発芽後の散布は薬害を生じる。 5. この時期以降、ミノガ類の発生園では、コテツフロアブル 2,000 倍液を散布する。コテツの使用時期は収穫 60 日前まで、使用回数は 2 回までなので注意する。
10a 当り	動噴	200ℓ							
散布量	S S	200ℓ							

時期	散布薬剤と薬量（水 1000ℓ当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病害虫	注 意 事 項																				
展葉6～8枚期	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr><td>アリエッティC水和剤</td><td>125 g</td></tr> <tr><td>オーソサイド水和剤 80</td><td>125 g</td></tr> <tr><td>キノンドー水和剤 80</td><td>83 g</td></tr> <tr><td>チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)</td><td>100 ml</td></tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="347 667 738 768"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 200ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 200ℓ</td> </tr> </table>	アリエッティC水和剤	125 g	オーソサイド水和剤 80	125 g	キノンドー水和剤 80	83 g	チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)	100 ml	10a 当り	動噴 200ℓ	散布量	S S 200ℓ	<p>べ と 病 黒 と う 病 つ る 割 病 クロヒメゾウムシ ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> この散布は病害の初期発生を防止する上で重要である。 アリエッティCを開花期以降に散布すると薬害、果粉溶脱の原因になる。 								
アリエッティC水和剤	125 g																						
オーソサイド水和剤 80	125 g																						
キノンドー水和剤 80	83 g																						
チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)	100 ml																						
10a 当り	動噴 200ℓ																						
散布量	S S 200ℓ																						
<p>べと病菌は薬剤耐性菌が出現しやすいため、同一薬剤、同系統薬剤の連用、多数回使用はしない（別表—2参照）。なお、Q○I剤は耐性菌が県下広域で出現しているため、べと病防除に使用しない。</p>																							
開 花 直 前	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr><td>キノンドー水和剤 80</td><td>83 g</td></tr> <tr><td>チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)</td><td>100 ml</td></tr> </table> <p>のいずれか</p> <p>灰色かび病防除剤</p> <table border="0"> <tr><td>ゲッター水和剤</td><td>66 g</td></tr> <tr><td>スイッチ顆粒水和剤</td><td>33 g</td></tr> <tr><td>パスワード顆粒水和剤</td><td>100 g</td></tr> <tr><td>フルピカフロアブル</td><td>33 ml</td></tr> <tr><td>ポリベリン水和剤</td><td>100 g</td></tr> <tr><td>ロブラール水和剤</td><td>66 g</td></tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="328 1657 722 1740"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 300ℓ</td> </tr> </table>	キノンドー水和剤 80	83 g	チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)	100 ml	ゲッター水和剤	66 g	スイッチ顆粒水和剤	33 g	パスワード顆粒水和剤	100 g	フルピカフロアブル	33 ml	ポリベリン水和剤	100 g	ロブラール水和剤	66 g	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 300ℓ	<p>灰色かび病 黒とう病 べと病 褐斑病 さび病 つる割病 ブドウネアブラムシ コウモリガ クロヒメゾウムシ フタテンヒメヨコバイ サルハムシ類 ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 灰色かび病の防除はこの時期と落花直後が重要である。ただし、耐性菌の出現を防ぐため今回と次回に使用する剤は異なる系統にする。 フルピカはおうとうにかかると薬害を生じるので、かからないようにする。 施設栽培では灰色かび病防除にロブラール水和剤 30 倍液を 10a 当り 6ℓの割合で常温煙霧機を用いて散布してもよい（総括注意 8 参照）。 べと病の初期発生量が多いと予想される場合は、キノンドー、チウラムにかえて、フォリオゴールド 1,500 倍液を散布してもよい。なお、落花期以降の散布により果面にさびを生じる場合があるので注意する。 ブドウネアブラムシの防除にモスピラン粒剤を株元に 1 m²当り 30g 散布する（総括注意 4 参照）。 コウモリガ防除のため、5月下旬にガットサイドSの 1.5 倍液を地際から 30 cmの位置まで散布する。また、株元や園内、園周辺の除草を行う。 モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
キノンドー水和剤 80	83 g																						
チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)	100 ml																						
ゲッター水和剤	66 g																						
スイッチ顆粒水和剤	33 g																						
パスワード顆粒水和剤	100 g																						
フルピカフロアブル	33 ml																						
ポリベリン水和剤	100 g																						
ロブラール水和剤	66 g																						
10a 当り	動噴 300ℓ																						
散布量	S S 300ℓ																						

時期	散布薬剤と薬量（水 1000 当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病害虫〕	注 意 事 項																																																												
落花直後 （6月中下旬）	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr> <td>〔ジマンダイセン水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>ペンコゼブフロアブル</td> <td>100 ml</td> </tr> <tr> <td>のいずれか</td> <td></td> </tr> </table> <p>灰色かび病防除剤</p> <table border="0"> <tr> <td>〔スイッチ顆粒水和剤</td> <td>33 g</td> </tr> <tr> <td>パスワード顆粒水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>フルピカフロアブル</td> <td>33 ml</td> </tr> <tr> <td>のいずれか</td> <td></td> </tr> </table> <p>殺虫剤</p> <table border="0"> <tr> <td>〔(合成ピレスロイド剤)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アーデント水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>アグロスリン水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>アディオン水和剤</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>スカウトフロアブル</td> <td>50 ml</td> </tr> <tr> <td>バイスロイドEW</td> <td>50 ml</td> </tr> <tr> <td>ロディー水和剤</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>(ネオニコチノイド剤)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクタラ顆粒水溶剤</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>アドマイヤー水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>アドマイヤー顆粒水和剤</td> <td>10 g</td> </tr> <tr> <td>ベストガード水溶剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>モスピラン顆粒水溶剤</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>(ジアミド剤)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テッパン液剤</td> <td>50 ml</td> </tr> <tr> <td>(その他)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>グレーシアフロアブル</td> <td>25 ml</td> </tr> <tr> <td>コテツフロアブル</td> <td>50 ml</td> </tr> <tr> <td>ディアナWDG</td> <td>10 g</td> </tr> <tr> <td>デリゲートWDG</td> <td>10 g</td> </tr> <tr> <td>のいずれか</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="327 1854 721 1935"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 3000</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>SS 3000</td> </tr> </table>	〔ジマンダイセン水和剤	100 g	ペンコゼブフロアブル	100 ml	のいずれか		〔スイッチ顆粒水和剤	33 g	パスワード顆粒水和剤	100 g	フルピカフロアブル	33 ml	のいずれか		〔(合成ピレスロイド剤)		アーデント水和剤	100 g	アグロスリン水和剤	100 g	アディオン水和剤	50 g	スカウトフロアブル	50 ml	バイスロイドEW	50 ml	ロディー水和剤	50 g	(ネオニコチノイド剤)		アクタラ顆粒水溶剤	50 g	アドマイヤー水和剤	100 g	アドマイヤー顆粒水和剤	10 g	ベストガード水溶剤	100 g	モスピラン顆粒水溶剤	50 g	(ジアミド剤)		テッパン液剤	50 ml	(その他)		グレーシアフロアブル	25 ml	コテツフロアブル	50 ml	ディアナWDG	10 g	デリゲートWDG	10 g	のいずれか		10a 当り	動噴 3000	散布量	SS 3000	<p>晩 腐 病 べ 色 か び 病 灰 色 か び 病 う どん こ 病 褐 斑 病 白 腐 病 さ び 病 つ る 割 病 チャノキアザミウマ クビアカスカシバ コウモリガ ブドウスカシバ コガネムシ類 ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> べと病をはじめ、晩腐病、白腐病、さび病、うどんこ病など多くの病害防除において最も重要な時期である。穂軸や新梢先端の葉にも十分かかるようにたっぷり散布する。 フルピカはおうとうにかかると薬害を生じるので注意する。 べと病の初期発生量が多いと予想される場合は、ジマンダイセン、ペンコゼブにかえてカンパネラ水和剤またはベネセット水和剤の 1,000 倍液を散布してもよい。なお、使用時期が遅れると果粉溶脱を生じる場合があるので注意する。 べと病の初期発生量が多く、特別散布を必要とする場合は、ザンプロDMフロアブル、フェスティバル水和剤、ベトファイター顆粒水和剤の 2,000 倍液、レーバスフロアブル 3,000 倍液、ジャストフィットフロアブル、ホライズンドライフロアブルの 5,000 倍液のいずれかを散布する。ただし、使用時期が遅れると果粉溶脱を生じる場合があるので注意する。 「巨峰」において晩腐病の多発が予想される場合は、ナリアWDG 2,000 倍液を散布する。ナリアは果粒肥大が進んでからの散布によって果粉溶脱を生じるので、落花 12 日後までの使用を厳守する。また「ピオーネ」、「コンコード」、「藤稜」、「シャルドネ」の葉に著しい薬害を生じるので注意する。 灰色かび病防除のため、花かすをできるだけ丁寧に取り除く。 クビアカスカシバの発生が多い園では、パダンSG水溶剤 1,500 倍液を散布する。小豆大期以降の散布で果粉溶脱を生じやすいので注意する（総括注意 5 参照）。 この時期以降、コウモリガの被害が目立つので、早期発見に努め防除する（総括注意 6 参照）。 モスピランは果粉溶脱が生じやすいので、使用はこの回までとする。また、アクタラ、グレーシアは小豆大期以降、コテツ、テッパンは大豆大期以降の散布で果粉溶脱を生じやすいので注意する。
〔ジマンダイセン水和剤	100 g																																																														
ペンコゼブフロアブル	100 ml																																																														
のいずれか																																																															
〔スイッチ顆粒水和剤	33 g																																																														
パスワード顆粒水和剤	100 g																																																														
フルピカフロアブル	33 ml																																																														
のいずれか																																																															
〔(合成ピレスロイド剤)																																																															
アーデント水和剤	100 g																																																														
アグロスリン水和剤	100 g																																																														
アディオン水和剤	50 g																																																														
スカウトフロアブル	50 ml																																																														
バイスロイドEW	50 ml																																																														
ロディー水和剤	50 g																																																														
(ネオニコチノイド剤)																																																															
アクタラ顆粒水溶剤	50 g																																																														
アドマイヤー水和剤	100 g																																																														
アドマイヤー顆粒水和剤	10 g																																																														
ベストガード水溶剤	100 g																																																														
モスピラン顆粒水溶剤	50 g																																																														
(ジアミド剤)																																																															
テッパン液剤	50 ml																																																														
(その他)																																																															
グレーシアフロアブル	25 ml																																																														
コテツフロアブル	50 ml																																																														
ディアナWDG	10 g																																																														
デリゲートWDG	10 g																																																														
のいずれか																																																															
10a 当り	動噴 3000																																																														
散布量	SS 3000																																																														

時期	散布薬剤と薬量（水 1000ℓ 当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病害虫〕	注 意 事 項						
落花直後 （6月中下旬）			<p>10. 合成ピレスロイド剤は、人によってかぶれやくしゃみが出る。また、蚕毒と魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p> <p>11. アクタラ、アドマイヤー、グレーシア、ディアナ、テッパン、デリゲート、パダン、モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p>						
6月下旬～7月上旬頃	<p>殺菌剤</p> <p>〔ジマンダイセン水和剤 100 g ペンコゼブフロアブル 100 ml （収穫 45 日前まで） のいずれか〕</p> <p>殺虫剤</p> <p>〔（合成ピレスロイド剤） アーデント水和剤 100 g アグロスリン水和剤 100 g アディオン水和剤 50 g スカウトフロアブル 50 ml バイスロイドEW 50 ml ロディー水和剤 50 g （ネオニコチノイド剤） アドマイヤー水和剤 100 g アドマイヤー顆粒水和剤 10 g ベストガード水溶剤 100 g （その他） ディアナWDG 10 g デリゲートWDG 10 g のいずれか〕</p> <table border="1" data-bbox="347 1529 740 1621"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S</td> <td>300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	300ℓ	散布量	S S	300ℓ	<p>晩 腐 病 べ さ と 病 褐 斑 病 白 腐 病 うどんこ病 チャノキアザミウマ コウモリガ クビアカスカシバ ブドウスカシバ</p>	<p>1. 新梢整理を行い、風通しをよくする。</p> <p>2. この回から袋掛けまで、展着剤は果粉の溶脱のおそれがあるので使用しない。</p> <p>3. べと病の多発が予想される場合には、ジマンダイセン、ペンコゼブにかえてカーゼートPZ水和剤 1,500 倍液を散布してもよい（収穫 45 日前まで）。</p> <p>4. べと病の発生量が多く、特別散布を必要とする場合は、エトフィンフロアブル、ランマンフロアブル 1,000 倍液又はライメイフロアブル 4,000 倍液のいずれかを散布する。ただし使用時期が遅れると果粉溶脱を生じる場合があるので注意する。</p> <p>5. うどんこ病の多いところでは、ベンレート水和剤 2,000 倍液を散布する（収穫 45 日前まで）。</p> <p>6. 白腐病は付傷部から感染する。降雨時及び、降雨直前の摘粒は発生を助長するのでさける。白腐病の発生が多いところではロブラール水和剤 1,500 倍液を散布する（収穫 60 日前まで）。</p> <p>7. ブドウトラカミキリの被害枝はこの時期までに処理する。</p> <p>8. 合成ピレスロイド剤は、人によってかぶれやくしゃみが出る。また、蚕毒と魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p> <p>9. アドマイヤー、ディアナ、デリゲートは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p>
10a 当り	動噴	300ℓ							
散布量	S S	300ℓ							

時期	散布薬剤と薬量（水 1000 当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害	注 意 事 項						
7 月 上 旬	殺菌剤 オートサイド水和剤 80 125 g <table border="1" data-bbox="327 474 721 568"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>2000</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S</td> <td>2000</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	2000	散布量	S S	2000	晩腐病 べと病 さび病 白腐病 褐斑病 うどんこ病 チャノキイロアザミウマ カイガラムシ類 クビアカスカシバ ブドウスカシバ ナミハダニ	1. 晩腐病の重要な防除時期である。 2. この散布が遅れると果実の汚れ、果粉溶脱を生じる。
10a 当り	動噴	2000							
散布量	S S	2000							
摘粒後袋掛け			1. 晩腐病菌、べと病菌などの感染、チャノキイロアザミウマの寄生を防止するため早め実施する。						

時期	散布薬剤と薬量（水 1000 当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害	注 意 事 項								
袋掛け直後（7月下旬～8月上旬）	<p>4-4式ボルドー液</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding: 2px;">生石灰</td> <td style="padding: 2px;">400 g</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">硫酸銅</td> <td style="padding: 2px;">400 g</td> </tr> </table> <p>又は</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding: 2px;">水</td> <td style="padding: 2px;">(98 l)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">I C ボルドー66D</td> <td style="padding: 2px;">2 kg</td> </tr> </table>	生石灰	400 g	硫酸銅	400 g	水	(98 l)	I C ボルドー66D	2 kg	<p style="text-align: center;">べ と 病 さ び 病 褐 斑 病 うどんこ病 チャノキアザミウマ クビアカスカシバ ナミハダニ カイガラムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 枝、葉が繁茂してくるので薬剤がすみずみまで到達するよう、十分量を丁寧に散布する。 2. 生石灰は商品ごとに登録内容が異なるので、内容を確認して使用する。 3. この時期以降 I C ボルドー48Q の 50 倍液、またはコサイド 3000 の 2,000 倍液（クレフノン 100 倍加用）を使用してもよい。 4. チャノキアザミウマの発生がみられる場合は、袋掛け後にも防除する（別表-3 参照）。 5. クビアカスカシバの虫糞排出が目立ち始める。発見したら寄生部の樹皮をはがして幼虫を捕殺し、ロビンフッドを食入孔に噴射する。また、発生の多い場合はパダン S G 水溶剤 1,500 倍液を散布する（総括注意 5 参照）。 6. ナミハダニの発生園では、マイトコーネフロアブル 1,000 倍液、バロックフロアブル、ピラニカ水和剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。 7. バロック、マイトコーネは 4-4 式ボルドー液、I C ボルドー 66D、I C ボルドー48Q と混用できない。また、近接散布でも効果が低下する。ボルドー液などの散布前、バロックとマイトコーネは 14 日以上あける。散布後、マイトコーネは 14 日以上あけ、バロックは使用しない。 8. クワコナカイガラムシの寄生が多い場合は、7 月下旬にトクチオン水和剤 800 倍液又はダイアジノン水和剤 34 の 1,000 倍液を散布する。ダイアジノンの散布は収穫 30 日前まで、トクチオンの散布は収穫 45 日前までとする。トクチオンはトマト、メロン等にかかるると特異的に臭いが残るので他作物にかからないように注意する。 9. パダン、バロック、ロビンフッドは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 10. ピラニカは魚毒に注意する。
	生石灰	400 g									
硫酸銅	400 g										
水	(98 l)										
I C ボルドー66D	2 kg										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">10a 当り</td> <td style="padding: 2px;">動噴</td> <td style="padding: 2px;">350l</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">散布量</td> <td style="padding: 2px;">S S</td> <td style="padding: 2px;">300～350l</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	350l	散布量	S S	300～350l					
10a 当り	動噴	350l									
散布量	S S	300～350l									

時期	散布薬剤と薬量（水 1000ℓ当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病害虫〕	注 意 事 項						
8月下旬～9月上旬	<p>4－4式ボルドー液 〔 生石灰 400 g 硫酸銅 400 g 〕</p> <p>又は 〔 水 (98 ℓ) I C ボルドー66D 2 kg</p> <table border="1" data-bbox="344 680 740 775"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S</td> <td>150～200ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	350ℓ	散布量	S S	150～200ℓ	<p>べ と 病 さ び 病 褐 斑 病 う どん こ 病 ブドウトラカミキリ チャノキイロアザミウマ</p>	<p>1. 生石灰は商品ごとに登録内容が異なるので、内容を確認して使用する。</p> <p>2. ブドウトラカミキリ防除にはスミチオン水和剤40の1,000倍液を散布する。散布は収穫21日前まで（大粒種ぶどう）とする。</p>
10a 当り	動噴	350ℓ							
散布量	S S	150～200ℓ							
収穫後	<p>4－4式ボルドー液 〔 生石灰 400 g 硫酸銅 400 g 〕</p> <p>又は 〔 水 (98 ℓ) I C ボルドー66D 2 kg</p> <table border="1" data-bbox="339 1232 740 1326"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S</td> <td>300～350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	350ℓ	散布量	S S	300～350ℓ	<p>べ と 病 さ び 病 褐 斑 病 う どん こ 病</p>	<p>1. ハウス栽培等、収穫の早いものは、葉の保護のため散布する。</p> <p>2. 生石灰は商品ごとに登録内容が異なるので、内容を確認して使用する。</p>
10a 当り	動噴	350ℓ							
散布量	S S	300～350ℓ							

薬剤の使用目的	薬剤名	FRACコード	使用基準 (収穫前日数)	使用回数(以内)	希釈倍数(倍)	対象病害に対する効果									注意事項該当番号	事項該当番号 薬害防止注意	
						べと病	灰色かび病	晩腐病	褐斑病	黒とう病	うどんこ病	さび病	つる割病	白腐病			
べと病 防除	6月下旬～7月上旬 カーゼートPZ水和剤	27+M3	45日	2	1,500	○*											
	エトフィンフロアブル	22	7日	4	1,000	○*											11
	ライメイフロアブル	21	14日	3	4,000	○*										3	15,20
	ランマンフロアブル	21	14日	3	1,000	○*										3	12
	袋かけ後 コサイド 3000	M1	—	—	2,000	○*						○					
	IC ボルドー48Q	M1	—	—	50	○*											6,20
	IC ボルドー66D	M1	—	—	50	○*		(100)		○		○*					
ボルドー液	M1	—	—	※2	○*				○								
灰色かび病 防除	開花直前 ゲッター水和剤	10+1	45日	1	1,500		○*										
	ポリベリン水和剤	M7+19	60日	2	1,000		○*	○	○	○	○				5	7	
	ロブラール水和剤	2	[60日]	3	1,500		○*						○				
	開花直前～落花直後 スイッチ顆粒水和剤	9+12	30日	2	3,000		○*	○							1,5	9	
	パスワード顆粒水和剤	17	14日	2	1,000		○*						○		5		
	フルピカフロアブル	9	30日	2	3,000		○*				○				1,5	16	
	袋かけ前 オンリーワンフロアブル	3	前日	3	2,000		○*	○	○	○*	○	○		○	1,5		
フルーツセイバー	7	7日	3	1,500		○*	○	○	○*	○	○						
うどんこ病 防除	ベンレート水和剤	1	45日	3	2,000		◇*	○	◇	○	○				4		

【効果凡例】 ○*：効果ある（対象病害に普及済み） ○：効果ある（対象病害に未普及）

◇：効果劣る（耐性菌の発生あり） （ ）：カッコ内の希釈倍数で対象病害に登録がある

（注1）：適用は落葉果樹の越冬病害虫

【使用基準（収穫前日数）】 []書きは、生育ステージによる使用時期の制限があるので注意する。

【使用回数（以内）】 []書きは、生育ステージにより使用回数が異なるので注意する。

※1：4回以内（但し、開花後は1回）。

【希釈倍数（倍）】 ※2：「巨峰」、「シャインマスカット」、「デラウェア」は4-4式、加工用ぶどうは4-2式を使用する。

【注意事項】（別表-1）

- 耐性菌の出現を防ぐため、特定薬剤の多用、連用を避け、ローテーション使用をする。特にDMI剤（FRACコード3）、SDHI剤（FRACコード7）、AP剤（FRACコード9）、QoI剤（FRACコード11）、ミギワ（FRACコード52）（いずれも混合剤の使用を含む）は年2回以内の使用に留める。
- QoI剤耐性べと病菌がすでに県下広域で出現しているため、QoI剤はべと病防除に使用しない。またホライズンは他系統薬剤との混合剤であるため、べと病防除に使用できるが、発生初期までの使用とし、連用、多数回使用はしない。
- これらの薬剤はいずれも耐性菌出現リスクが比較的高いので注意する。特にべと病菌は耐性菌が出現しやすいため、FRACコードを参考にし、同一薬剤、同系統薬剤の連用、多数回使用をしないように薬剤を選ぶ。
- ベンレート（FRACコード1）に耐性の褐斑病菌、灰色かび病菌が蔓延しているため、両病害防除には使用しない。

5. 灰色かび病防除薬剤は耐性菌出現防止のため同一薬剤及び、同系統薬剤は1回だけの使用とし、異なる系統の薬剤とローテーション使用する。ロブラール（FRACコード2）とゲッター（FRACコード10+1）はすでに灰色かび病菌の耐性菌が出現している。なお、フルピカとスイッチは同系統（FRACコード9）の薬剤である。
6. パスポート及びデランは石灰硫黄合剤と併用する場合には、5日程度以上の間隔をあける。
7. ジマンダイセンとペンコゼブ、カンパネラとベネセット、チオノックとトレノックスはそれぞれ有効成分、分量が同一である。
8. デランは人によってかぶれることがあるので注意する。

【別表－2】主要薬剤の有効成分とFRACによる耐性菌リスク¹

薬剤名	有効成分	作用機構	グループ名	FRACコード ²	耐性菌出現リスク ³	備考
ライメイフロアブル	アミスルブロム	呼吸	QiI (Qi阻害剤)	21	中～高	
ランマンフロアブル	シアゾファミド	呼吸	QiI (Qi阻害剤)	21	中～高	
ナリアWDG	ピラクロストロビン	呼吸	QoI (Qo阻害剤)	11	高い	登録は 晩腐病
	ボスカリド	呼吸	SDHI (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	7		
ホライズンドライフロアブル	ファモキサドン	呼吸	QoI (Qo阻害剤)	11	高い	
	シモキサニル	不明	シアノアセトアミドオキシム	27		
エトフィンフロアブル	エタボキサム	有糸分裂と 細胞分裂	チアゾールカルボキサミド	22	低～中	
カンパネラ水和剤 ベネセット水和剤	ベンチアバリカルブ イソプロピル	細胞壁 生成	CAA (カルボン酸アミド)	40	低～中	
	マンゼブ	多作用点 接触活性	ジチオカーバメート	M3		
ザンプロDMフロアブル	ジメトモルフ	細胞壁 生成	CAA (カルボン酸アミド)	40	中～高	
	アメトクトラジン	呼吸	QoSI (Qo阻害、スチグマテ リン結合タイプ)	45		
ジャストフィットフロアブル	ベンチアバリカルブ イソプロピル	細胞壁 生成	CAA (カルボン酸アミド)	40	中	
	フルオピコリド	有糸分裂と 細胞分裂	ベンズアミド	43		
フェスティバル水和剤	ジメトモルフ	細胞壁 生成	CAA (カルボン酸アミド)	40	低～中	
ベトファイター顆粒水和剤	ベンチアバリカルブ イソプロピル	細胞壁 生成	CAA (カルボン酸アミド)	40	低～中	
	シモキサニル	不明	シアノアセトアミドオキシム	27		
レーバスフロアブル	マンジプロパミド	細胞壁 生成	CAA (カルボン酸アミド)	40	低～中	
フォリオゴールド	メタラキシルM	核酸合成	フェニルアミド	4	高い	
	TPN	多作用点 接触活性	クロロニトリル	M5		
カーゼートPZ水和剤	シモキサニル	不明	シアノアセトアミドオキシム	27	低～中	
	マンゼブ	多作用点 接触活性	ジチオカーバメート	M3		
ジマンダイセン水和剤	マンゼブ	多作用点 接触活性	ジチオカーバメート	M3	低い	
ペンコゼブフロアブル						
チオノックフロアブル	チウラム	多作用点 接触活性	ジチオカーバメート	M3	低い	
トレノックスフロアブル						
オーソサイド水和剤80	キャプタン	多作用点 接触活性	フタルイミド	M4	低い	
キノンドー水和剤80	有機銅	多作用点 接触活性	無機化合物	M1*	低い	

1. FUNGICIDE RESISTANCE ACTION COMMITTEE による FRAC Code List2022 を参考に作成。

2. 作用機作等による分類で同一コードは同一成分または同一の系統を表す。同一系統薬剤は交差耐性の関係にあると考えられる。

3. 混合剤の場合、有効成分のうち耐性菌リスクが高い方をその剤の耐性菌出現リスクとして表記した。

【別表－3】殺虫剤の適用害虫に対する使用方法及び効果

- ・使用に当たっては、登録内容を再確認すること（表中の登録内容は令和5年11月30日現在）
- ・使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、薬剤に含まれる成分毎に総使用回数が別途決められているので、それを超えないように注意する。

薬剤の系統	殺虫剤名	I R A Cコード	使用基準（収穫前日数）	使用回数（以内）	希釈倍数（倍）	対象害虫に対する効果										注意事項該当番号	薬害防止注意事項該当番号	ボルドー液との混用
						フタテンヒメヨコバイ	ツマグロアオカスミカメ	アブラムシ類	アカガネサルハムシ	チャノキイロアザミウマ	クワコナカイガラムシ	コガネムシ類	ブドウトラカミキリ	クビアカスカシバ	ミノガ類			
有機リン剤	スミチオン水和剤 40	1	大粒 21日 小粒 90日	2	1,000	○			○		○	○ (成虫)	○*			1	19,21, 25,30	△
	ダイアジノン水和剤 34	1	大粒 30日	2	1,000			○			○*					1	21,26, 30	△
	トクチオン水和剤	1	大粒 45日	3	800					○ (注3)	○*					1	21,27, 30	×
合成ピレスロイド剤	アーデント水和剤	3	7日	4	1,000	○				○*					1, 2	5,22	△	
	アグロスリン水和剤	3	21日	5	1,000	○				○*		(2000)			2	22	△	
	アディオン水和剤	3	7日	5	2,000	○				○*		○			1, 2	22	△	
	スカウトフロアブル	3	7日	3	2,000	○				○*		○ (成虫)			1, 2	22	△	
	バイスロイドEW	3	大粒 7日	2	2,000					○*		○			1, 2	22	△	
	ロディー水和剤	3	21日	2	2,000					○*					1, 2	22	△	
ネオニコチノイド剤	アクタラ顆粒水溶剤	4	7日	2	2,000	○				○*	○ (注4)				1	23,24		
	アドマイヤー水和剤	4	21日 (注1)	2	1,000	○				○*						7,23		
	アドマイヤー顆粒水和剤	4	21日 (注1)	2	10,000	○				○*						7,23		
	ベストガード水溶剤	4	30日	3	1,000	○				○*	○ (注4)					24	×	
	モスピラン顆粒水溶剤	4	14日	3	2,000	○	○			○*	○ (注5)	○ (成虫)			1	23,24	△	
ジアミド剤	テツパン液剤	28	前日	2	2,000		○ (注2)			○*		○			1	23,24		
その他	グレーシアフロアブル	30	14日	2	4,000					○*						23,24, 30		
	コテツフロアブル	13	60日	2	2,000	○				○*		○		○*		24,28, 30	×	
	ディアナWDG デリゲートWDG	5	前日	2	10,000					○*			○	1, 3	23			
	パダンSG水溶剤	14	大粒 21日	5	1,500	○				○			○*		24,29	△		

【使用基準】（注1）：但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く

【効果凡例】○*：効果ある（対象害虫に普及済み） ○：効果ある（対象害虫に未普及）

（ ）：カッコ内の希釈倍数で対象害虫に登録がある

（注2）：適用害虫はカメムシ類 （注3）：適用害虫はアザミウマ類

（注4）：適用害虫はコナカイガラムシ類 （注5）：適用害虫はカイガラムシ類

（注6）：適用害虫はスカシバ類

【ボルドー液との混用】 ×：混用できない △：使用直前に混合し、速やかに使い切る

【注意事項】（別表-3）

1. 眼に対して刺激性があるため、眼に入らないように注意すること。
2. 抵抗性の出現を防ぐため合成ピレスロイド剤は年2回以内の使用にとどめ、他系統剤とローテーション使用を心がける。
3. ディアナとデリゲートは有効成分、分量が同一である。

【薬害防止の注意事項】（別表-1、3）

1. ナリアの使用は「巨峰」に限る。「ピオーネ」には葉および果実に、「コンコード」、「藤稔」、「サニールージュ」、「シャルドネ」では葉に著しい薬害を生じるので、周辺に栽培されている場合や混植園では注意する。果粒肥大が進んでからの散布によって果粉溶脱を生じるので、落花12日後までの使用を厳守する。また、西洋なし「ル・レクチェ」にかかると薬害を生じることがある。
2. セイビアーは幼果期（小豆大）以降の散布で果粉溶脱を生じることがある。
3. ミギワは果実肥大中期（大豆大）以降の散布で果粉溶脱を生じることがある。
4. アリエッティCは開花期以降に散布すると薬害、果粉溶脱を生じることがある。
5. オーソサイドは落花期以降の散布で、アージェントと混用すると果粒にサビを生じることがある。
6. ICボルドー48Q、66D及びボルドー液は薬液が乾かないうちに降雨にあうと薬害を生じるので、降雨直前の散布は避ける。
7. ポリベリンは落花期以降の散布で、アドマイヤーと混用すると果粒にサビを生じることがある。
8. カンパネラ、ベネセットはボルドー液との7日以内の近接散布により薬害を生じるおそれがあるので注意する。
9. スイッチは使用時期が遅れると果粉溶脱を発生する場合があるので落花直後までの使用とする。また、おうとう、レタスに対して薬害を生じるおそれがあるので、かからないようにする。
10. ホライズンは幼果期（小豆大）以降、袋かけ前までの散布で果粉溶脱を生じることがある。
11. エトフィンは大豆大期から袋かけ前までの散布で果粉溶脱を生じることがある。
12. ランマンは大豆大期から袋かけ前までの散布で果粉溶脱を生じることがある。
13. オーソサイドは幼果期～袋掛けまでの散布で果粉溶脱や果粒の汚れを生じることがある。
14. フォリオゴールドは幼果期（小豆大）以降の散布で果粉溶脱、品種によっては果実に薬害（さび）を生じることがある。
15. ライメイは幼果期（小豆大）以降（無袋栽培）、幼果期（小豆大）以降袋掛け前まで（有袋栽培）の散布で果粉溶脱を生じることがある。
16. フルピカはおうとうにかかると薬害を生じるので、かからないようにする。
17. パスポートは開花直前～落花20日後頃のりんごに対して薬害（さび果）を生じるおそれがあるので隣接園では注意する。
18. ジャストフィットはあんずに対して薬害を生じるおそれがあるので注意する。
19. アリエッティCとスミチオンは混用しない。また、オーソサイドとスミチオンとを混用すると薬害が生じるので混用しない。
20. チオノック、トレノックスは蚕毒と魚毒が、ベフラン、ミギワは蚕毒が、アリエッティC、オーソサイド、キノンドー、ザンプロDM、ナリア、パスポート、フォリオゴールド、ホライズン、ボルドー（硫酸銅）、ライメイは魚毒が強いので注意する。
21. 有機リン剤は品種や時期によって、りんご、ももに薬害を生じることがあるので、近接園では注意する。
22. 合成ピレスロイド剤は人によって、くしゃみやかぶれを生じることがある。また、蚕毒と魚毒が極めて強く使用地域の指定があるので、これ以外では使用しない（特別指導事項参照）。
23. アクタラ、アドマイヤー、グレーシア、ディアナ、テッパン、デリゲート、モスピランは蚕毒が特に強いので桑園付近で使用しない（特別指導事項参照）。
24. ベストガードは果粉溶脱のおそれがあるため袋かけ直前の散布を避ける。アクタラ、グレーシアは果粒の小豆大期以降、コテツ、テッパンは大豆大期以降の散布で果粉溶脱を生じやすいので注意する。モスピランは幼果期から果粒肥大期の散布で果粉溶脱のおそれがあるため使用を避け、新梢伸長期から落花期又は袋かけ以降に使用する。パダンSGは果粉溶脱のおそれがあるため、小豆大期以降袋かけ前までは使用しない。
25. スミチオンは周辺栽培のあぶらな科作物に薬害を生じるおそれがあるので注意する。
26. ダイアジノン周辺栽培のかぶ、ごぼう、しゅんぎくに薬害を生じるおそれがあるので注意する。

27. トクチオンはトマト、メロン等にかかると特異的に臭いが残るので他作物にかからないように注意する。
28. コテツは周辺栽培のメロン、ほうれんそう、しそに薬害を生じるおそれがあるので注意する。
29. **パダンSGは蚕毒が特に強いので桑園付近で使用しない（特別指導事項参照）**。また、水産動植物（魚類・甲殻類・ドジョウ・藻類）に影響を及ぼすので注意する。樹勢が弱い場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しない。たばこ、なすに薬害を生じるため、薬液がかからないように注意する。
30. コテツは蚕毒と魚毒が、スミチオン、ダイアジノン、トクチオンは蚕毒が、グレーシアは魚毒が強いので注意する。

【総括注意】

1. 品種の混植園等では、薬剤の使用時期（収穫前日数）に留意して薬剤を選定し、薬液飛散に注意して防除にあたる。
2. 根頭がんしゅ病の発病防止のため、わら巻による防寒を実施する。わらの厚さは5 cm以上とし、主幹部を12月～3月下旬まで被覆する。わらが濡れると防寒効果がおちるので、すぐって用いる。
3. ボルドー液や有機殺菌剤などは、薬液が乾きにくい場合、薬害が発生するおそれがあるので、早朝や夕方など湿気が高く乾きにくい時の散布は避ける。特に施設栽培では注意が必要である。
4. ブドウネアブラムシの防除には耐虫性台木を使用する。なお、自根樹で発生が見られた場合は、主幹周辺の株元半径2.5mの範囲以内にモスピラン粒剤を1㎡当り30g散布する。栽植本数が10a当り10本を超える場合は1樹当りの処理面積を減らし、10a当りの散布量が6kgを超えないようにする。
5. クビアカスカシバ防除対策
 - (1) 成虫は主に6月から8月中旬頃に発生し、粗皮の荒れた部位などに産卵する傾向があるため、この時期の殺虫剤は太枝にも十分かかるよう丁寧に散布する。
 - (2) 幼虫は7月中旬頃から虫糞や木屑を排出するため、見つけ次第、樹皮をはいで幼虫を捕殺し、ロビンフッドのノズルを樹幹・樹枝の食入孔に差し込み噴射する。噴射は、食入箇所が薬液でにじむ程度行う。噴射の際は薬液が果実や葉にかからないように注意する。処理後も虫糞が認められる場合は、使用回数の上限を超えないように注意して、再度処理する。本剤の使用回数については、1日の作業の中で1つの樹に何回処理しても1回のカウントになる。同一の樹において、1回目の処理と別の日に処理した場合は、2回目のカウントとなる。本剤は使用回数に制限があるため、処理樹にラベルを付けるなどして使用回数の上限を超えないよう十分に注意する。**ロビンフッドは通常の使用方法では飛散の危険性が少なく、使用地域の指定はないが、蚕毒が強いため、使用方法を厳守するとともに桑に付着するおそれのある場所では使用しない（特別指導事項参照）**。
6. コウモリガは6月以降に食入が多くなる。早期発見に努め、被害を認めた時は虫孔に針金を差し込み刺殺する。また株元、園周辺の雑草は常に刈り取っておく。
7. 施設栽培における防除の注意
 - (1) ハウス内湿度が高い時は灰色かび病が発生しやすいので換気を図るとともに、花かす落としを行い、開花前後の防除を徹底する。
 - (2) アザミウマ類、ハダニ類は早くから発生しやすいので、早期防除に努める。
 - (3) 薬剤散布は薬液が乾きやすいような状態にして行う。
8. 常温煙霧防除法における注意
 - (1) 常温煙霧専用の機械を用いる。
 - (2) 作業は夕方に行い、作業終了後6時間以上密閉する。
 - (3) 作業中及び、ハウス密閉中は室内に入らない。
 - (4) 作業中はハウスを密閉し換気扇を作動させない。
 - (5) 薬液が植物に直接かからないようにする。
 - (6) 「巨峰」以外では使用しない。

(2)「シャインマスカット」

この暦は露地栽培、短梢せん定の「シャインマスカット」を基準として作成した。「クイーンルー
ジュ®」など欧州系大粒種もこの防除体系を参考にする。

【注意事項】

1. この暦には小粒種ぶどうに登録のない薬剤や、小粒種ぶどうと大粒種ぶどうで登録内容が異なる薬剤が含まれるため注意する。
2. 農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

時期	散布薬剤と薬量（水 1000ℓ当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害	注 意 事 項		
（落葉から発芽直前まで） 休眠期	越冬病虫害の防除 晩腐病 } 黒とう病 } 根頭がんしゅ病 クワコナカイガラムシ ブドウサビダニ } ブドウヒメハダニ }	：前年発生園では残存果房や穂軸、り病結果母枝、巻きひげの除去を徹底する。 ：わら巻による防寒を実施する（「巨峰」の総括注意2参照）。 ：発生園では冬季に粗皮を除去し、越冬卵を処分する。 ：3月下旬頃、石灰硫黄合剤 10 倍液を散布する。本剤は皮膚に刺激があるので注意する。4月中旬の黒とう病防除に本剤を散布する場合は、この散布を省略することができる。			
4月中旬（発芽前）	殺菌剤 ┌ 水 (90 ℓ) └ 石灰硫黄合剤 10 ℓ 又は デランフロアブル 500 ml <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>10a 当り 散布量</td> <td>動噴 200ℓ S S 200ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り 散布量	動噴 200ℓ S S 200ℓ	黒とう病 晩腐病 褐斑病 つる割病 カスミカメムシ類 ブドウハモグリダニ ブドウヒメハダニ ミノガ類	1. 晩腐病、黒とう病などの防除に重要である。発芽期に近づいた頃実施する。 2. 石灰硫黄合剤を散布する場合、ペフラン液剤25の250倍液またはベンレート水和剤 500 倍液も散布する。褐斑病の多発園ではベンレート水和剤を使用しない。 3. この時期以降、ミノガ類の発生園では、コテツフロアブル 2,000 倍液を散布する。コテツの使用時期は収穫 60 日前まで、使用回数は 2 回までなので注意する。 4. 短梢せん定以外でブドウトラカミキリの発生がみられる場合は、「巨峰」の項を参照し、防除する。
10a 当り 散布量	動噴 200ℓ S S 200ℓ				
展葉2～3枚期	殺菌剤 〔キノンドー水和剤 80 83 g〕 チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス) 100 ml〕 のいずれか <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>10a 当り 散布量</td> <td>動噴 200ℓ S S 200ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り 散布量	動噴 200ℓ S S 200ℓ	黒とう病 クワコナカイガラムシ	1. 黒とう病発生園では必ず散布する。
10a 当り 散布量	動噴 200ℓ S S 200ℓ				

時期	散布薬剤と薬量（水 1000 当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病害虫〕	注 意 事 項																				
展葉 6 ～ 8 枚期	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr> <td>アリエッティC水和剤</td> <td>125 g</td> </tr> <tr> <td>オーソサイド水和剤 80</td> <td>125 g</td> </tr> <tr> <td>キノンドー水和剤 80</td> <td>83 g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="347 607 738 701"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 200ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 200ℓ</td> </tr> </table>	アリエッティC水和剤	125 g	オーソサイド水和剤 80	125 g	キノンドー水和剤 80	83 g	10a 当り	動噴 200ℓ	散布量	S S 200ℓ	<p>べ と 病 黒 と う 病 つ る 割 病 クロヒメゾウムシ ミノガ類</p>	<p>1. アリエッティCを開花期以降に散布すると薬害、果粉溶脱の原因になる。</p>										
アリエッティC水和剤	125 g																						
オーソサイド水和剤 80	125 g																						
キノンドー水和剤 80	83 g																						
10a 当り	動噴 200ℓ																						
散布量	S S 200ℓ																						
<p>べと病菌は薬剤耐性菌が出現しやすいため、同一薬剤、同系統薬剤の連用、多数回使用はしない（「巨峰」の別表—2参照）。なお、QoI 剤は耐性菌が県下広域で出現しているため、べと病防除に使用しない。</p>																							
開 花 直 前	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr> <td>キノンドー水和剤 80</td> <td>83 g</td> </tr> <tr> <td>チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)</td> <td>100 ml</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <p>灰色かび病防除剤</p> <table border="0"> <tr> <td>ゲッター水和剤</td> <td>66 g</td> </tr> <tr> <td>スイッチ顆粒水和剤</td> <td>33 g</td> </tr> <tr> <td>パスワード顆粒水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>フルピカフロアブル</td> <td>33 ml</td> </tr> <tr> <td>ポリベリン水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>ロブラール水和剤</td> <td>66 g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="328 1518 722 1601"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 300ℓ</td> </tr> </table>	キノンドー水和剤 80	83 g	チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)	100 ml	ゲッター水和剤	66 g	スイッチ顆粒水和剤	33 g	パスワード顆粒水和剤	100 g	フルピカフロアブル	33 ml	ポリベリン水和剤	100 g	ロブラール水和剤	66 g	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 300ℓ	<p>灰色かび病 黒とう病 べと病 うどんこ病 褐斑病 さび病 つる割病 ブドウネアブラムシ コウモリガ クロヒメゾウムシ フタテンヒメヨコバイ サルハムシ類 ミノガ類</p>	<p>1. 灰色かび病の防除はこの時期と落花直後が重要である。ただし、耐性菌の出現を防ぐため今回と次回に使用する剤は異なる系統にする。</p> <p>2. フルピカはおうとうにかかると薬害を生じるので注意する。</p> <p>3. べと病の初期発生量が多いと予想される場合は、キノンドー、チウラムにかえて、フォリオゴールド 1,500 倍液を散布してもよい。なお、落花期以降の散布により果面にさびを生じる場合があるので注意する。</p> <p>4. ブドウネアブラムシの防除にモスピラン粒剤を株元に 1 m²当り 30g 散布する（「巨峰」の総括注意 4 参照）。</p> <p>5. コウモリガ防除のため、5 月下旬にガットサイド S の 1.5 倍液を地際から 30 cm の位置まで散布する。また、株元や園内、園周辺の除草を行う。</p> <p>6. モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p>
キノンドー水和剤 80	83 g																						
チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)	100 ml																						
ゲッター水和剤	66 g																						
スイッチ顆粒水和剤	33 g																						
パスワード顆粒水和剤	100 g																						
フルピカフロアブル	33 ml																						
ポリベリン水和剤	100 g																						
ロブラール水和剤	66 g																						
10a 当り	動噴 300ℓ																						
散布量	S S 300ℓ																						

時期	散布薬剤と薬量（水 1000 当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害	注 意 事 項																																																												
落花直後（6月中下旬）	<p>殺菌剤</p> <table border="0"> <tr> <td>〔ジマンダイセン水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>ペンコゼブフロアブル</td> <td>100 ml</td> </tr> <tr> <td>のいずれか</td> <td>〕</td> </tr> </table> <p>灰色かび病防除剤</p> <table border="0"> <tr> <td>〔スイッチ顆粒水和剤</td> <td>33 g</td> </tr> <tr> <td>パスワード顆粒水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>フルピカフロアブル</td> <td>33 ml</td> </tr> <tr> <td>のいずれか</td> <td>〕</td> </tr> </table> <p>殺虫剤</p> <table border="0"> <tr> <td>〔(合成ピレスロイド剤)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アーデント水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>アグロスリン水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>アディオオン水和剤</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>スカウトフロアブル</td> <td>50 ml</td> </tr> <tr> <td>バイスロイドEW</td> <td>50 ml</td> </tr> <tr> <td>ロディー水和剤</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>(ネオニコチノイド剤)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクタラ顆粒水溶剤</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>アドマイヤー水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>アドマイヤー顆粒水和剤</td> <td>10 g</td> </tr> <tr> <td>ベストガード水溶剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>モスピラン顆粒水溶剤</td> <td>50 g</td> </tr> <tr> <td>(ジアミド剤)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テッパン液剤</td> <td>50 ml</td> </tr> <tr> <td>(その他)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>グレーシアフロアブル</td> <td>25 ml</td> </tr> <tr> <td>コテツフロアブル</td> <td>50 ml</td> </tr> <tr> <td>ディアナWDG</td> <td>10 g</td> </tr> <tr> <td>デリゲートWDG</td> <td>10 g</td> </tr> <tr> <td>のいずれか</td> <td>〕</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="327 1720 721 1805"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 3000</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>SS 3000</td> </tr> </table>	〔ジマンダイセン水和剤	100 g	ペンコゼブフロアブル	100 ml	のいずれか	〕	〔スイッチ顆粒水和剤	33 g	パスワード顆粒水和剤	100 g	フルピカフロアブル	33 ml	のいずれか	〕	〔(合成ピレスロイド剤)		アーデント水和剤	100 g	アグロスリン水和剤	100 g	アディオオン水和剤	50 g	スカウトフロアブル	50 ml	バイスロイドEW	50 ml	ロディー水和剤	50 g	(ネオニコチノイド剤)		アクタラ顆粒水溶剤	50 g	アドマイヤー水和剤	100 g	アドマイヤー顆粒水和剤	10 g	ベストガード水溶剤	100 g	モスピラン顆粒水溶剤	50 g	(ジアミド剤)		テッパン液剤	50 ml	(その他)		グレーシアフロアブル	25 ml	コテツフロアブル	50 ml	ディアナWDG	10 g	デリゲートWDG	10 g	のいずれか	〕	10a 当り	動噴 3000	散布量	SS 3000	<p>晩腐病 灰色かび病 黒とう病 うどんこ病 褐斑病 白腐病 さび病 つる割病 チャノキアザミウマ クビアカスカシバ コウモリガ ブドウスカシバ コガネムシ類 ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> べと病をはじめ、晩腐病、白腐病、さび病、うどんこ病など多くの病害防除において最も重要な時期である。穂軸や新梢先端の葉にも十分かかるようにたっぷり散布する。 フルピカはおうとうにかかると薬害を生じるので注意する。 べと病の初期発生量が多いと予想される場合は、ジマンダイセン、ペンコゼブにかえてカンパネラ水和剤またはベネセット水和剤の 1,000 倍液を散布してもよい。なお、使用時期が遅れると果粉溶脱を生じる場合があるので注意する。 べと病の初期発生量が多く、特別散布を必要とする場合は、ザンプロDMフロアブル、フェスティバル水和剤、ベトファイター顆粒水和剤の 2,000 倍液、レーバスフロアブル 3,000 倍液、ジャストフィットフロアブル、ホライズンドライフロアブルの 5,000 倍液のいずれかを散布する。ただし、使用時期が遅れると果粉溶脱を生じる場合があるので注意する。 灰色かび病防除のため、花かすをできるだけ丁寧に取り除く。 クビアカスカシバの発生が多い園では、パダンSG水溶剤 1,500 倍液を散布する。小豆大期以降の散布で果粉溶脱を生じやすいので注意する（「巨峰」の総括注意5参照）。 この時期以降、コウモリガの被害が目立つので、早期発見に努め防除する（「巨峰」の総括注意6参照）。 モスピランは果粉溶脱が生じやすいので、使用はこの回までとする。また、アクタラ、グレーシアは小豆大期以降、コテツ、テッパンは大豆大期以降の散布で果粉溶脱を生じやすいので注意する。 合成ピレスロイド剤は、人によってかぶれやくしゃみが出る。また、蚕毒と魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
〔ジマンダイセン水和剤	100 g																																																														
ペンコゼブフロアブル	100 ml																																																														
のいずれか	〕																																																														
〔スイッチ顆粒水和剤	33 g																																																														
パスワード顆粒水和剤	100 g																																																														
フルピカフロアブル	33 ml																																																														
のいずれか	〕																																																														
〔(合成ピレスロイド剤)																																																															
アーデント水和剤	100 g																																																														
アグロスリン水和剤	100 g																																																														
アディオオン水和剤	50 g																																																														
スカウトフロアブル	50 ml																																																														
バイスロイドEW	50 ml																																																														
ロディー水和剤	50 g																																																														
(ネオニコチノイド剤)																																																															
アクタラ顆粒水溶剤	50 g																																																														
アドマイヤー水和剤	100 g																																																														
アドマイヤー顆粒水和剤	10 g																																																														
ベストガード水溶剤	100 g																																																														
モスピラン顆粒水溶剤	50 g																																																														
(ジアミド剤)																																																															
テッパン液剤	50 ml																																																														
(その他)																																																															
グレーシアフロアブル	25 ml																																																														
コテツフロアブル	50 ml																																																														
ディアナWDG	10 g																																																														
デリゲートWDG	10 g																																																														
のいずれか	〕																																																														
10a 当り	動噴 3000																																																														
散布量	SS 3000																																																														

時期	散布薬剤と薬量（水 1000ℓ当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病害虫〕	注 意 事 項						
落花直後 (6月中下旬)			10. アクタラ、アドマイヤー、グレーシア、ディアナ、テッパン、デリゲート、パダン、モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。						
6月下旬～7月上旬頃	<p>殺菌剤</p> <p>〔ジマンダイセン水和剤 100 g ペンコゼブフロアブル 100 ml (収穫45日前まで) のいずれか〕</p> <p>殺虫剤</p> <p>〔(合成ピレスロイド剤) アーデント水和剤 100 g アグロスリン水和剤 100 g アディオン水和剤 50 g スカウトフロアブル 50 ml バイスロイドEW 50 ml ロディー水和剤 50 g (ネオニコチノイド剤) アドマイヤー水和剤 100 g アドマイヤー顆粒水和剤 10 g ベストガード水溶剤 100 g (その他) ディアナWDG 10 g デリゲートWDG 10 g のいずれか〕</p> <table border="1" data-bbox="347 1400 740 1496"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>SS</td> <td>300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	300ℓ	散布量	SS	300ℓ	<p>晩腐病 黒とう病 うどんこ病 べと病 さび病 褐斑病 白腐病 チャキイアザミウマ コウモリガ ブドウスカシバ クビアカスカシバ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新梢整理を行い、風通しをよくする。 2. この回から袋掛けまで、展着剤は果粉の溶脱のおそれがあるので使用しない。 3. うどんこ病の多いところではペンレート水和剤 2,000 倍液を散布する（収穫 45 日前まで）。 4. べと病の多発が予想される場合には、ジマンダイセン、ペンコゼブにかえてカーゼート P Z 水和剤 1,500 倍液を散布してもよい（収穫 45 日前まで）。 5. べと病の発生量が多く、特別散布を必要とする場合は、エトフィンフロアブル、ランマンフロアブル 1,000 倍液又はライメイフロアブル 4,000 倍液のいずれかを散布する。ただし使用時期が遅れると果粉溶脱を生じる場合があるので注意する。 6. 白腐病は付傷部から感染する。降雨時及び、降雨直前の摘粒は発生を助長するのでさける。白腐病の発生が多いところではロブラール水和剤 1,500 倍液を散布する（収穫 60 日前まで）。 7. 合成ピレスロイド剤は、人によってかぶれやくしゃみが出る。また、蚕毒と魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 8. アドマイヤー、ディアナ、デリゲートは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
10a 当り	動噴	300ℓ							
散布量	SS	300ℓ							
7月上旬	<p>殺菌剤</p> <p>オーソサイド水和剤 80 125 g</p> <table border="1" data-bbox="328 1706 721 1803"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>200ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>SS</td> <td>200ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	200ℓ	散布量	SS	200ℓ	<p>晩腐病 黒とう病 べと病 さび病 白腐病 褐斑病 うどんこ病 チャキイアザミウマ カイガラムシ類 クビアカスカシバ ブドウスカシバ ナミハダニ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 晩腐病の重要な防除時期である。 2. この散布が遅れると果実の汚れ、果粉溶脱を生じる。 3. 「シャインマスカット」の長期貯蔵を行う園では、貯蔵中の灰色かび病対策として袋かけ前にフルーツセイバー 1,500 倍液またはオンリーワンフロアブル 2,000 倍液を散布する。
10a 当り	動噴	200ℓ							
散布量	SS	200ℓ							

時期	散布薬剤と薬量（水 1000ℓ当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病害虫	注 意 事 項						
	摘 粒 後 袋 掛 け		1. 晚腐病菌、黒とう病菌、べと病菌などの感染、チャノキイロアザミウマの寄生を防止するため早め に実施する。						
袋掛け直後（7月下旬～8月上旬）	<p>4-4式ボルドー液 〔 生石灰 400 g 〕 〔 硫酸銅 400 g 〕</p> <p>又は</p> <p>水 (98 ℓ) I Cボルドー66D 2 kg</p> <table border="1" data-bbox="327 797 721 882"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S</td> <td>300～350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	350ℓ	散布量	S S	300～350ℓ	<p>べ と 病 さ び 病 黒 と う 病 褐 斑 病 う どん こ 病 チャノキイロアザミウマ クビアカスカシバ ナミハダニ カイガラムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 枝、葉が繁茂してくるので薬剤がすみずみまで到達するよう、十分量を丁寧に散布する。 生石灰は商品ごとに登録内容が異なるので、内容を確認して使用する。 この時期以降 I Cボルドー48Q の 50 倍液、またはコサイド 3000 の 2,000 倍液（クレフノン 100 倍加用）を使用してもよい。 チャノキイロアザミウマの発生がみられる場合は、袋掛け後にも防除する（別表-3参照）。 クビアカスカシバの虫糞排出が目立ち始める。発見したら寄生部の樹皮をはがして幼虫を捕殺し、ロビンフッドを食入孔に噴射する。また、発生の多い場合はパダン S G 水溶剤 1,500 倍液を散布する（「巨峰」の総括注意 5 参照）。 ナミハダニの発生園では、マイトコーネフロアブル 1,000 倍液、バロックフロアブル、ピラニカ水和剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。 バロック、マイトコーネは 4-4 式ボルドー液、I Cボルドー 66D、I Cボルドー48Q と混用できない。また、近接散布でも効果が低下する。ボルドー液などの散布前、バロックとマイトコーネは 14 日以上あける。散布後、マイトコーネは 14 日以上あけ、バロックは使用しない。 クワコナカイガラムシの寄生が多い場合は、7月下旬にトクチオン水和剤 800 倍液又はダイアジノン水和剤 34 の 1,000 倍液を散布する。ダイアジノンの散布は収穫 30 日前まで、トクチオンの散布は収穫 45 日前までとする。トクチオンはトマト、メロン等にかかると特異的に臭いが残るので他作物にかからないように注意する。 パダン、バロック、ロビンフッドは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 ピラニカは魚毒に注意する。
10a 当り	動噴	350ℓ							
散布量	S S	300～350ℓ							

時期	散布薬剤と薬量（水 1000ℓ当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害	注 意 事 項						
8月下旬～9月上旬	<p>4－4式ボルドー液 〔 生石灰 400 g 硫酸銅 400 g 〕</p> <p>又は 〔 水 (98 ℓ) I Cボルドー66D 2 kg</p> <table border="1" data-bbox="344 680 740 775"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S</td> <td>200ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	350ℓ	散布量	S S	200ℓ	<p>べ と 病 さ び 病 黒 と う 病 褐 斑 病 う どん こ 病 ブドウトラカミキリ チャノキイロアザミウマ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生石灰は商品ごとに登録内容が異なるので、内容を確認して使用する。 2. 短梢せん定以外でブドウトラカミキリの発生がみられる場合は、スミチオン水和剤 40 の 1,000 倍液を散布する。散布は収穫 21 日前まで（大粒種ぶどう）とする。
10a 当り	動噴	350ℓ							
散布量	S S	200ℓ							
収穫後	<p>4－4式ボルドー液 〔 生石灰 400 g 硫酸銅 400 g 〕</p> <p>又は 〔 水 (98 ℓ) I Cボルドー66D 2 kg</p> <table border="1" data-bbox="339 1232 740 1326"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S</td> <td>300～350ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	350ℓ	散布量	S S	300～350ℓ	<p>べ と 病 黒 と う 病 さ び 病 褐 斑 病 う どん こ 病</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハウス栽培等、収穫の早いものは、葉の保護のため散布する。 2. 生石灰は商品ごとに登録内容が異なるので、内容を確認して使用する。
10a 当り	動噴	350ℓ							
散布量	S S	300～350ℓ							

総括注意：「巨峰」の総括注意を参照する。

(3) 「デラウェア」

この暦は露地栽培の「デラウェア」を基準として作成した。「ナイアガラ」など米国系品種もこの防除体系を参考にする。

【注意事項】

1. この暦は小粒種ぶどうと大粒種ぶどうの両者に使用可能な薬剤のみを記載した。ただし、小粒種ぶどうと大粒種ぶどうで登録内容が異なる薬剤が含まれるため注意する。
2. 農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

時期	散布薬剤と薬量（水 1000 当り） 及び、散布量	発生病虫害名 〔 太字は防除 〕 重要病虫害	注 意 事 項					
休眠期 （落葉から発芽直前まで）	越冬病虫害の防除 晩腐病 } 黒とう病 } ブドウトラカミキリ } ブドウスカシバ } ブドウサビダニ } ブドウヒメハダニ }	: 前年発生園では残存果房や穂軸、り病結果母枝、巻きひげの除去を徹底する。 : 被害枝を剪除し、焼却するか土中に埋める。 : 3月下旬頃、石灰硫黄合剤 10 倍液を散布する。本剤は皮膚に刺激があるので注意する。						
	殺菌剤 〔 ベフラン液剤 25 400 ml 〕 〔 ベンレート水和剤 200 g 〕 のいずれか <table border="1" data-bbox="327 1093 719 1189"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴</td> <td>300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S</td> <td>250～300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴	300ℓ	散布量	S S	250～300ℓ	晩腐病 褐斑病 黒とう病 つる割病 ブドウトラカミキリ カスマカムシ類 ミノガ類
10a 当り	動噴	300ℓ						
散布量	S S	250～300ℓ						
べと病菌は薬剤耐性菌が出現しやすいため、同一薬剤、同系統薬剤の連用、多数回使用はしない（「巨峰」の別表—2 参照）。なお、Q o I 剤は耐性菌が県下広域で出現しているため、べと病防除に使用しない。								

時期	散布薬剤と薬量（水 100ℓ当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害〕	注 意 事 項												
5月下旬 〔第1回ジベ処理日の前〕	<p>殺菌剤</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>アリエッティC水和剤</td> <td>125 g</td> </tr> <tr> <td>オーソサイド水和剤 80</td> <td>125 g</td> </tr> <tr> <td>キノンドー水和剤 80</td> <td>83 g</td> </tr> <tr> <td>チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)</td> <td>100 ml</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 10px;"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250～300ℓ</td> </tr> </table>	アリエッティC水和剤	125 g	オーソサイド水和剤 80	125 g	キノンドー水和剤 80	83 g	チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)	100 ml	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250～300ℓ	<p>べと病 灰色かび病 黒とう病 褐斑病 さび病 つる割病 サルハムシ類 クロヒメゾウムシ フタテンヒメヨコバイ コウモリガ ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. アリエッティCを開花期以降に散布すると薬害、果粉溶脱の原因になる。 2. 灰色かび病は発生初期から防除を行う。薬剤の使用時期に注意し、パスワード顆粒水和剤、ポリベリン水和剤の1,000倍液、ロブラール水和剤1,500倍液、スイッチ顆粒水和剤、フルピカフロアブルの3,000倍液のいずれかを散布する。ただし、耐性菌の出現を防ぐため異なる系統の薬剤をローテーション使用する。 3. フルピカはおうとうにかかると薬害を生じるので注意する。 4. コウモリガ防除のため、5月下旬にガットサイドSの1.5倍液を地際から30cmの位置まで散布する。また、株元や園内、園周辺の除草を行う。
アリエッティC水和剤	125 g														
オーソサイド水和剤 80	125 g														
キノンドー水和剤 80	83 g														
チウラムフロアブル (チオノック、トレノックス)	100 ml														
10a 当り	動噴 300ℓ														
散布量	S S 250～300ℓ														
6月上旬 (開花始め頃)	<p>殺菌剤</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>ジマンダイセン水和剤</td> <td>100 g</td> </tr> <tr> <td>ペンコゼブフロアブル</td> <td>100 ml</td> </tr> </table> <p>(収穫45日前まで) のいずれか</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 10px;"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250～300ℓ</td> </tr> </table>	ジマンダイセン水和剤	100 g	ペンコゼブフロアブル	100 ml	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250～300ℓ	<p>晩腐病 灰色かび病 べと病 褐斑病 黒とう病 つる割病 さび病 クロヒメゾウムシ サルハムシ類 コウモリガ ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. べと病の多発が予想される場合は、フォリオゴールド1,500倍液を散布してもよい。なお、収穫60日前までに散布する。また落花期以降の散布により果面にさびを生じる場合があるので注意する。 2. べと病の初期発生量が多く、特別散布を必要とする場合はエトフィンフロアブル、ランマンフロアブルの1,000倍液、ザンプロDMフロアブル、フェスティバル水和剤、ベトファイター顆粒水和剤の2,000倍液、レーバスフロアブル3,000倍液、ライメイフロアブル4,000倍液、ジャストフィットフロアブル、ホライズンドライフロアブルの5,000倍液のいずれかを散布する。ただし使用時期が遅れると果粉溶脱を生じる場合があるので注意する。 				
ジマンダイセン水和剤	100 g														
ペンコゼブフロアブル	100 ml														
10a 当り	動噴 300ℓ														
散布量	S S 250～300ℓ														

時期	散布薬剤と薬量（水 1000 当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害	注 意 事 項				
〔第 2 回〕シベ処理 3 日後頃 6 月中・下旬頃	<p>殺菌剤 オーソサイド水和剤 80 125 g</p> <table border="1" data-bbox="328 477 719 573"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250~300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250~300ℓ	<p>晩腐病 べと病 さび病 褐斑病 うどんこ病 白腐病 つる割病 灰色かび病 クビアカスカシバ クロヒメゾウムシ サルハムシ類 ブドウスカシバ コウモリガ ブドウトラカミキリ ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 灰色かび病防除のため、花かすをできるだけ丁寧に取り除く。 2. 白腐病は付傷部から感染する。降雨時及び、降雨直前の摘粒は発生を助長するのでさける。 3. この時期以降、コウモリガの被害が目立つので、早期発見に努め防除する（「巨峰」の総括注意 6 参照）。 4. ブドウトラカミキリの被害枝は見つけしだい処分する。
10a 当り	動噴 300ℓ						
散布量	S S 250~300ℓ						
笠掛 け ・ 袋 掛 け			<ol style="list-style-type: none"> 1. 晩腐病など果実病害を防ぐため、ジベレリン処理後なるべく早く実施する。 2. 晩腐病対策として、無袋栽培では笠掛けを 6 月下旬から 7 月上旬頃までに行うと効果が高い。 				
7 月上・中旬	<p>4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400 g 硫酸銅 400 g 〕</p> <p>又は 〔 水 (98 ℓ) I C ボルドー 66D 2 kg 〕</p> <table border="1" data-bbox="347 1599 738 1695"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 350ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 350ℓ	散布量	S S 300ℓ	<p>さび病 べと病 晩腐病 褐斑病 白腐病 ナミハダニ ブドウスカシバ ブドウトラカミキリ クビアカスカシバ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 笠掛け栽培では、果実の汚れ防止のため棚上から散布する。 2. 有袋栽培では棚下散布とする。 3. 生石灰は商品ごとに登録内容が異なるので、内容を確認して使用する。 4. 4-4 式ボルドー液、I C ボルドー 66D にかえてコサイド 3000 の 2,000 倍液（クレフノン 100 倍加用）を散布してもよい。 5. ナミハダニの発生園では、マイトコーネフロアブル 1,000 倍液、バロックフロアブル 2,000 倍液のいずれかを散布する。 6. バロック、マイトコーネは 4-4 式ボルドー液、I C ボルドー 66D と混用できない。また、近接散布でも効果が低下する。ボルドー液などの散布前、バロックとマイトコーネは 14 日以上あける。散布後、マイトコーネは 14 日以上あけ、バロックは使用しない。 7. バロックは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
10a 当り	動噴 350ℓ						
散布量	S S 300ℓ						

時期	散布薬剤と薬量（水 1000 当り）及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害〕	注 意 事 項		
7 月下旬～ 8 月上旬	<p>4－4 式ボルドー液 〔生石灰 400 g〕 〔硫酸銅 400 g〕</p> <p>又は</p> <p>〔水 (98 ㍓)〕 〔I C ボルドー66D 2 kg〕</p> <table border="1" data-bbox="328 680 719 779"> <tr> <td>10a 当り 散布量</td> <td>動噴 350㍓ S S 300㍓</td> </tr> </table>	10a 当り 散布量	動噴 350㍓ S S 300㍓	<p>さ び 病 べ と 病 晩 腐 病 褐 斑 病 クビアカスカシバ カイガラムシ類 ナミハダニ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 笠掛け栽培では、果実の汚れ防止のため棚上から散布する。 有袋栽培では棚下散布とする。 生石灰は商品ごとに登録内容が異なるので、内容を確認して使用する。 コサイド 3000 の 2,000 倍液（クレフノン 100 倍加用）を散布してもよい。 クビアカスカシバの虫糞排出が目立ち始める。発見したら寄生部の樹皮をはがして幼虫を捕殺し、ロビンフッドを食入孔に噴射する（「巨峰」の総括注意 5 参照）。 ロビンフッドは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
10a 当り 散布量	動噴 350㍓ S S 300㍓				
収穫直後	<p>4－4 式ボルドー液 〔生石灰 400 g〕 〔硫酸銅 400 g〕</p> <p>又は</p> <p>〔水 (98 ㍓)〕 〔I C ボルドー66D 2 kg〕</p> <table border="1" data-bbox="339 1240 740 1339"> <tr> <td>10a 当り 散布量</td> <td>動噴 350㍓ S S 300㍓</td> </tr> </table>	10a 当り 散布量	動噴 350㍓ S S 300㍓	<p>さ び 病 べ と 病 褐 斑 病</p>	<ol style="list-style-type: none"> 生石灰は商品ごとに登録内容が異なるので、内容を確認して使用する。 コサイド 3000 の 2,000 倍液（クレフノン 100 倍加用）を散布してもよい。
10a 当り 散布量	動噴 350㍓ S S 300㍓				

総括注意：「巨峰」の総括注意を参照する。

(4) 加工用ぶどう

この暦は露地栽培の加工用ぶどうの防除を目的として作成した。

【注意事項】

1. この暦は小粒種ぶどうと大粒種ぶどうの両者に使用可能な薬剤のみを記載した。ただし、小粒種ぶどうと大粒種ぶどうで登録内容が異なる薬剤が含まれるため注意する。
2. 農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

時期	散布薬剤と薬量 (水 1000当り) 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害	注 意 事 項				
休眠期	<p>越冬病虫害の防除</p> <p>晩腐病 } : 前年発生園では残存果房や穂軸、り病結果母枝、巻きひげの除去を徹底する。</p> <p>黒とう病 }</p> <p>ブドウトラカミキリ } : 被害枝を剪除し、焼却するか土中に埋める。</p> <p>ブドウスカシバ }</p> <p>ブドウサビダニ } : 3月下旬頃、石灰硫黄合剤 10 倍液を散布する。本剤は皮膚に刺激があるので注意する。</p> <p>ブドウヒメハダニ }</p>						
4月中旬 (発芽前)	<p>殺菌剤</p> <p>〔ベフラン液剤 25 400 ml〕 〔ベンレート水和剤 200 g〕 のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="352 1070 740 1167"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250~300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250~300ℓ	<p>晩腐病 褐斑病 つる割病 ブドウトラカミキリ カスカメムシ類 ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左記の剤にかえて、デランフロアブル 200 倍液またはパスポート顆粒水和剤 250 倍液を散布してもよい。石灰硫黄合剤と混用しない。パスポートは開花直前～落花 20 日後頃のりんごに対して薬害 (さび果) を生じるおそれがあるので注意する。 2. ブドウトラカミキリの防除にはガットキラー乳剤 100 倍液、ラビキラー乳剤 200 倍液、トラサイドA乳剤 300 倍液のいずれかを散布する。石灰硫黄合剤と混用しない。なお、発芽後の散布は薬害を生じる。 3. この時期以降、ミノガ類の発生園では、コテツフロアブル 2,000 倍液を散布する。コテツの使用時期は収穫 60 日前まで、使用回数は 2 回までなので注意する。
10a 当り	動噴 300ℓ						
散布量	S S 250~300ℓ						
<p>べと病菌は薬剤耐性菌が出現しやすいため、同一薬剤、同系統薬剤の連用、多数回使用はしない (「巨峰」の別表—2 参照)。なお、QoI 剤は耐性菌が県下広域で出現しているため、べと病防除に使用しない。</p>							

時期	散布薬剤と薬量（水 1000当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害	注 意 事 項																		
5 月 下 旬 ～ 6 月 上 旬	<p>殺菌剤</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px solid black;">〔キノンドー水和剤 80</td> <td style="border: 1px solid black;">83 g</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">チウラムフロアブル</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">〕(チオノック、トレノックス)</td> <td style="border: 1px solid black;">100 ml</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250～300ℓ</td> </tr> </table>	〔キノンドー水和剤 80	83 g	チウラムフロアブル		〕(チオノック、トレノックス)	100 ml	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250～300ℓ	<p>黒とう病 灰色かび病 べと病 うどんこ病 褐斑病 サルハムシ類 フタテンヒメヨコバイ クロヒメゾウムシ ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> キノンドー、チウラムにかえてアリエッティC水和剤 800 倍液、フォリオゴールド 1,500 倍液のいずれかを散布してもよい。アリエッティCは薬害を生じることがあるので使用は開花直前に限る。また、フォリオゴールドは落花期以降の散布により果面にさびを生じる場合があるので注意する。 灰色かび病は発生初期から防除を行う。薬剤の使用時期に注意し、パスワード顆粒水和剤、ポリベリン水和剤の 1,000 倍液、ゲッター水和剤、ロブラール水和剤の 1,500 倍液、スイッチ顆粒水和剤、フルピカフロアブルの 3,000 倍液のいずれかを散布する。ただし、耐性菌の出現を防ぐため、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。 フルピカはおうとうにかかると薬害を生じるので注意する。 べと病の初期発生量が多いと予想される場合は、ジマンダイセン、ペンコゼブにかえて、カンパネラ水和剤またはベネセット水和剤の 1,000 倍液を散布してもよい。 								
〔キノンドー水和剤 80	83 g																				
チウラムフロアブル																					
〕(チオノック、トレノックス)	100 ml																				
10a 当り	動噴 300ℓ																				
散布量	S S 250～300ℓ																				
6 月 中 旬	<p>殺菌剤</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px solid black;">〔ジマンダイセン水和剤 100 g</td> <td style="border: 1px solid black;">100 g</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">ペンコゼブフロアブル</td> <td style="border: 1px solid black;">100 ml</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <p>灰色かび病防除剤</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px solid black;">〔スイッチ顆粒水和剤 33 g</td> <td style="border: 1px solid black;">33 g</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">パスワード顆粒水和剤</td> <td style="border: 1px solid black;">100 g</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">フルピカフロアブル</td> <td style="border: 1px solid black;">33 ml</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">ポリベリン水和剤</td> <td style="border: 1px solid black;">100 g</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">ロブラール水和剤</td> <td style="border: 1px solid black;">66 g</td> </tr> </table> <p>のいずれか</p> <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250～300ℓ</td> </tr> </table>	〔ジマンダイセン水和剤 100 g	100 g	ペンコゼブフロアブル	100 ml	〔スイッチ顆粒水和剤 33 g	33 g	パスワード顆粒水和剤	100 g	フルピカフロアブル	33 ml	ポリベリン水和剤	100 g	ロブラール水和剤	66 g	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250～300ℓ	<p>灰色かび病 黒とう病 べと病 晩腐病 うどんこ病 褐斑病 クロヒメゾウムシ サルハムシ類 フタテンヒメヨコバイ クビアカスカシバ ミノガ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> べと病の初期発生量が多く、特別散布を必要とする場合は、エトフィンフロアブル、ランマンフロアブルの 1,000 倍液、ザンプロDMフロアブル、フェスティバル水和剤、ベトファイター顆粒水和剤の 2,000 倍液、レーバフロアブル 3,000 倍液、ライメイフロアブル 4,000 倍液、ジャストフィットフロアブル、ホライズンドライフロアブルの 5,000 倍液のいずれかを散布する。 6月中旬以降、晩腐病の感染が多くなるので房にも十分量を丁寧に散布する。 コウモリガ防除のため、5月下旬にガットサイドSの 1.5 倍液を地際から 30 cmの位置まで散布する。また、株元や園内、園周辺の除草を行う。
〔ジマンダイセン水和剤 100 g	100 g																				
ペンコゼブフロアブル	100 ml																				
〔スイッチ顆粒水和剤 33 g	33 g																				
パスワード顆粒水和剤	100 g																				
フルピカフロアブル	33 ml																				
ポリベリン水和剤	100 g																				
ロブラール水和剤	66 g																				
10a 当り	動噴 300ℓ																				
散布量	S S 250～300ℓ																				

時期	散布薬剤と薬量（水 1000当り） 及び、散布量	発生病害虫名 〔太字は防除〕 重要病虫害	注 意 事 項				
6 月 下 旬 ～ 7 月 上 旬	<p>4-2式ボルドー液 〔 生石灰 200 g 硫酸銅 400 g 〕</p> <table border="1" data-bbox="352 555 740 647"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250～300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250～300ℓ	<p>晩 腐 病 べ と 病 う どん こ 病 さ び 病 房 枯 病 ブドウスカシバ クビアカスカシバ コガネムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 晩腐病の発生が多い園では、防除対策として笠掛けを6月下旬から7月上旬頃までに行う。 2. この時期以降8月下旬まで、ボルドー液にかえてコサイド3000の2,000倍液（クレフノン100倍加用）を散布してもよい。 3. この時期以降、コウモリガの被害が目立つので、早期発見に努め防除する（「巨峰」の総括注意6参照）。
10a 当り	動噴 300ℓ						
散布量	S S 250～300ℓ						
7 月 中 旬	<p>4-2式ボルドー液 〔 生石灰 200 g 硫酸銅 400 g 〕</p> <table border="1" data-bbox="352 913 740 1005"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250～300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250～300ℓ	<p>晩 腐 病 べ と 病 さ び 病 う どん こ 病 房 枯 病 ブドウスカシバ クビアカスカシバ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブドウトラカミキリの被害枝はこの時期までに処理する。
10a 当り	動噴 300ℓ						
散布量	S S 250～300ℓ						
7 月 下 旬 ～ 8 月 上 旬	<p>4-2式ボルドー液 〔 生石灰 200 g 硫酸銅 400 g 〕</p> <table border="1" data-bbox="352 1301 740 1393"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250～300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250～300ℓ	<p>晩 腐 病 べ と 病 さ び 病 う どん こ 病 房 枯 病 クビアカスカシバ カイガラムシ類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 晩腐病、房枯病の被害部は取り除く。 2. クビアカスカシバの虫糞排出が目立ち始める。発見したら寄生部の樹皮をはがして幼虫を捕殺し、ロビンフッドを食入孔に噴射する（「巨峰」の総括注意5参照）。 3. ロビンフッドは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
10a 当り	動噴 300ℓ						
散布量	S S 250～300ℓ						
8 月 中 ・ 下 旬	<p>4-2式ボルドー液 〔 生石灰 200 g 硫酸銅 400 g 〕</p> <table border="1" data-bbox="352 1666 740 1758"> <tr> <td>10a 当り</td> <td>動噴 300ℓ</td> </tr> <tr> <td>散布量</td> <td>S S 250～300ℓ</td> </tr> </table>	10a 当り	動噴 300ℓ	散布量	S S 250～300ℓ	<p>晩 腐 病 べ と 病 さ び 病 う どん こ 病 房 枯 病 ブドウトラカミキリ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋雨の時期に入ると病害の発生が多くなるので、この時期以降9月上・中旬にも4-2式ボルドー液を散布する。
10a 当り	動噴 300ℓ						
散布量	S S 250～300ℓ						

総括注意：「巨峰」の総括注意を参照する。